

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷八十二第

行發日一月五年四和昭

論叢

價格の勢力説 文學博士 高田 保馬

地方税に於ける累進課税 法學博士 神戶 正雄

マルサスの恐慌論 經濟學士 谷口 吉彦

說苑

交通事業に於ける競争 經濟學博士 小島昌太郎

重農學派の自然法觀 法學士 山口正太郎

英蘭銀行の成立及び發展過程に就いて 經濟學士 一谷藤一郎

雜錄

ギリシヤの新發券銀行に就いて 經濟學士 松岡 孝兒

目的税と考慮税 經濟學士 中川與之助

ザイルプラントの新らしき經濟政策論 經濟學士 藤田 敬三

國民所得に就いて 經濟學博士 汐見 三郎

法令

絲價安定融資補償法・資源調査法・製鹽地整理ニ關スル法律

(禁 轉 載)

法令

絲價安定融資補償法

法律第十四號 (昭和四年三月二十七日)

第一條 生絲ノ價格ガ一般經濟狀況ニ照シ異常ナル低落ヲ爲シ蠶絲業ノ基礎ヲ危クル虞アル場合ニ於テ其ノ價格ノ安定ヲ圖ル爲必要アルト認ムルトキハ政府ハ銀行ガ生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者ニ對シ主務大臣ノ定ムル條件ニ從ヒ生絲ヲ擔保トシ手形割引ノ方法ニ依リ資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ於テ之ニ因リ損失ヲ受クルトキ銀行ニ對シ其ノ損失ニ付キ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者ニ對シ資金ノ融通ヲ爲ス場合、於テ其ノ者ニ對シ銀行ガ前項ノ條件ニ從ヒ生絲ヲ擔保トシ手形割引ノ方法ニ依リ資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

一 生絲ノ問屋

二 主務大臣ガ絲價委員會ノ議ヲ經テ適當ト認ムル者

前二項ノ規定ニ依リ政府ガ損失補償ノ契約ヲ爲スニ付テハ絲價委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス

絲價委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 損失補償ノ契約ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ五年トス

第三條 損失補償ノ契約ニ基キ政府ノ支拂フベキ損失補償金ノ總額ハ三千萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條 第一條ノ損失ハ銀行ガ擔保トシテ受取リタル生絲ニ付債權ノ辨濟ヲ受ケ尙不足アルトキ其ノ不足分トス

前項ノ損失ニ付政府ノ補償スベキ額ハ損失補償ノ契約ニ定ムル金額ノ制限其ノ他ノ條件ニ從ヒ絲價安定融資補償審査會之ヲ決定ス

絲價安定融資補償審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 銀行ガ擔保トシテ受取リタル生絲ノ債權ノ辨濟ヲ受クル爲處分セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

主務大臣前項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ絲價委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス

第六條 政府ガ銀行ニ對シテ支拂フベキ損失補償金ハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第七條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ノ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第八條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ主務大臣之ヲ定ム

第九條 損失ノ補償ヲ受ケタル銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ債權ノ取立ヲ爲シ其ノ取立金ヲ政府ニ納付スベシ

銀行ハ命令ノ定ムル所ニ依リ生絲ノ間屋其ノ他生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者ノ爲ニ生絲ノ販賣ヲ爲ス者ヲシテ其ノ取扱ニ係ル生絲ノ販賣代金中ヨリ前項ノ債權ノ取立ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 損失ノ補償ヲ受クルノ契約ヲ爲シタル銀行ガ本法若キハ政府ハ契約ヲ解除シ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ損失補償金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ本法施行ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ生絲ノ製造又ハ加工ヲ爲ス者及第一條第二項各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ其ノ事業又ハ財産ニ關スル報告ヲ爲サシメ、其ノ事業又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 本法ノ適用ニ付テハ産業組合中央金庫ハ之ヲ銀行ト

看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

資源調査法

法律第五十三號 (昭和四年四月十一日)

第一條 政府ハ人的及物的資源ノ調査ノ爲必要アルトキハ個人又ハ法人ニ對シ之ニ關スル報告又ハ實地申告ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ資源調査ノ範圍、方法其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 當該官吏又ハ吏員ハ人的及物的資源ノ統制運用計畫ノ設定及遂行ニ必要ナル資源調査ノ爲必要ナル場所ニ立入り、検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニハ其證票ヲ携帯スベシ

第三條 工業の發明ニ係リ其ノ他特殊ナル業務上ノ秘密ニ屬スル事項又ハ設備ニシテ命令ニ定ムルモノニ付テハ第一條ノ報告若ハ實地申告ヲ命ジ又ハ前條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 第一條ノ規定ニ依リ報告又ハ實地申告ヲ命ゼラレタル者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁

治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業

務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ於テ報告又ハ實地申告ヲ爲スノ義務ヲ有ス

第五條 第一條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告若ハ實地申告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告若ハ實地申告ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 第二條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ調査資料ヲ提供シ又ハ質問ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 當該官吏若ハ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス當該官吏又ハ吏員第三條ノ規定ニ違反シタルトキ亦同ジ

職務上前項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキ罰前項ニ同ジ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

製鹽地整理ニ關スル法律

法律第五十二號 (昭和四年四月四日)

第一條 鹽專賣法第六條ノ規定ニ依リ製鹽地ノ區域ヲ制限スル場合ニ於テハ政府ハ鹽ノ種類、製造方法ヲ區別シテ之ヲ制限スルコトヲ得

製鹽地ノ區域ノ制限ニ依リ鹽ノ製造ヲ禁止シタルトキハ政府ハ禁止ノ際ニ於ケル鹽製造者、製鹽地ノ所有者、鹽ニ據ル製造ニ專用スル建物設備器具器械ノ所有者ニ對シ其ノ請求ニ依リ命令ノ定ムル所ニ從ヒ交付金ヲ交付ス

前項ノ鹽製造者ハ昭和四年三月以前ニ於テ鹽製造ノ許可ヲ受ケ製造禁止ノ際現ニ其ノ製造ヲ爲ス者ニ限ル但シ昭和四年四月以後相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタル場合ニ於テハ被相續人ノ受ケタル製造ノ許可ハ相續人ニ於テ之ヲ受ケタルモノト看做ス

昭和四年三月ニ於ケル實況ニ依リ鹽ノ製造ヲ廢止シタルモノト認ムベキ製鹽地ニ付テハ鹽製造者、製鹽地及之ニ附屬スル建物設備器具器械ノ所有者ニ對シ第二項ノ交付金ヲ交付セズ交付金ヲ交付スベキ建物設備器具器械ノ種類數額ハ政府之ヲ決定ス

第二條 交付金ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

一 鹽製造者ニ對シテハ製鹽地一年間納付鹽賠償金額 (鹹水ヲ買受ケ鹽ノ製造ヲ爲ス者ニ付テハ其ノ買受代金ヲ控除シ

タル金額)ノ三割五分ニ相當スル金額鹹水ヲ賣渡シタルモ
ノアルトキハ其ノ賣渡代金ハ之ヲ納付摺賠償金ト看做ス

二 製鹽地所有者ニ對シテハ製鹽地ノ價額ヨリ摺製造禁止後
ニ於ケル其ノ見込價額ヲ控除シタル金額

三 摺製造専用ノ建物設備器具器械ノ所有者ニ對シテハ建物
設備器具器械ノ價額ヨリ摺製造禁止後ニ於ケル其ノ見込價
額ヲ控除シタル金額

第三條 前條ノ納付摺賠償金額ハ大正十四年ヨリ昭和二年ニ至
ル三年ノ納付摺賠償金額ノ平均ニ依リ之ヲ定ム但シ三年中摺
ノ製造ヲ繼續セザル年、製鹽地ノ納付摺若ハ鹹水ノ數量ヲ區
分シ難キ年又ハ納付摺及賣渡鹹水ナキ年アルトキハ之ヲ除キ
タル年ノ納付摺賠償金額ノ平均ニ依リ平均ナキトキハ其ノ除
クベキ事故ナキ年ノ納付摺賠償金額ニ依ル

大正十四年ヨリ昭和二年ニ至ル三年共ニ前項但書ニ規定スル
事故アル製鹽地ノ納付摺賠償金額ハ政府之ヲ決定ス

第四條 製鹽地ノ價額及摺製造禁止後ニ於ケル製鹽地ノ見込價
額ハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

摺製造専用ノ建物設備器具器械ノ價額ヨリ摺製造禁止後ニ於
ケル其ノ見込價額ヲ控除シタル金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協
議調ハザルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

第五條 前條ノ決定ニ對シ不服アル者ハ十日内ニ其ノ申立ヲ爲
スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ更ニ鑑定人ヲ選定シ其ノ
意見ヲ徵シ之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アルトキハ行政裁判所
ニ出訴スルコトヲ得

第六條 交付金ノ總額ハ千三百萬圓以內トス
交付金ハ額面金額ニ依リ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス
但シ摺製造者ニ對スル交付金ノ一部及國債證券ノ最小額面金
額ニ滿タザル端數ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第七條 政府ハ前條ノ交付金額中同條但書ノ規定ニ依リ現金ヲ
以テ交付スル額ヲ除キタル金額ノ限度ニ於テ公債ヲ發行スル
コトヲ得

第八條 摺ノ製造ヲ禁止シタル區域内ニ於ケル摺製造専用ノ建
物設備器具器械ニ對シテハ政府ハ監督上必要ナル處分ヲ爲ス
コトヲ得

〔參照〕

明治三十八年一月一日公布 法律第十一號摺專賣法抄錄

第六條 政府ハ製鹽地ノ區域又ハ摺ノ製造扣問若ハ生産高ヲ
制限スルコトヲ得

前項ニ依ル制限ハ摺ノ試製ニ之ヲ適用セズ